

イベント・ツアラーズ
EVENT TOURER's
GarageEVERYN

第2回関東&関西ミーティング2014
H26.6.8 於鈴鹿ツインサーキット



エキサイティングな
サーキット走行を満喫

毎回ツーリングやバーベキューなど参加者全員が楽しめるイベントが企画してきたエブリンフリークによるオフミーティング。今回はガレージエブリン自身が企画する第2回目の「関東&関西ミーティング」となり、昨年のBBQパーティーとは打って変わってサーキット走行がメインのオフ会となった。サーキット走行枠には27台のエントリーが募り、オフ会自体の参加台数としては過去最大となる60台オーバーものEVOシリーズが集まった。会場では同時にエナジー最新作であるEVO63.1とEVO90.2の初披露も行われ、気温は一気に上昇! フリーク達にとってこれが絶対にない熱い1日となつた。



エナジーコンプリートを愛するフリークが毎年開催してきたオフミーティング。今回は第2回関東&関西ミーティングとあって、鈴鹿ツインサーキットでの走行会オフを企画。昨年の芦屋マリーナBBQパーティーに続き、2回目となった今回のエブリン主催オフ会は60台オーバーもの参加車が集まつた。



▲今年の会場に抜擢されたのは鈴鹿ツインサーキット。設備も充実したサーキット場は、エスケープゾーンも広くビギナーにも走りやすいコースレイアウトが魅力。贅沢にも朝一から貸し切りにされていたため、他の走行車両もなく気兼ねなくオフミーティングが満喫できた。エントリー車両の中にはサーキットを走るのは初めてというユーザーも多く、接触等の事故を避けるため同時に走る台数を3台程度に限定。バトルこそ観られなかったものの、タイムも計測され各自存分にサーキット走行を満喫していたのだった。



▲当日はサーキット走行とオフミーティングだけでなく、目玉イベントとしてエナジーコンプリート最新作の発表会もかねていた。これまででもエブリンでは新作モデルのお披露目をオフ会等で行ってきた経緯があり、エブリンがいかにユーザーは大切にしているかがよく分かる。今回はステージ上の2台の他に、M6ベースのEVO63.1と325ベースのEVO90.2も登場。i3デモカーも加わり参加者は一同に大興奮! エントリー者は講習会の後、ゼッケンとヘッドライトのテープeling、計測機器の搭載を行ってサーキット走行に備えた。



▲今回サーキット走行エントリーは27台だったものの、全国オフも兼ねていたため参加者数は多く、パドックの半数はオフ会参加車両で埋め尽くされていた。天候にも恵まれ、トラブルフリーで無事全てのプログラムを終えたのだった。



▲スタッフのドライビングでエナジーi3もサーキット走行を披露。普段なかなか見ることの出来ない走行シーンを目の当たりにした参加車からは感動の声も。

▲今回初披露のEVO63.1-335iも満を持してコースイン! パワフルなマシンだけに水を得た魚の如く迫力ある走行シーンを披露。ツインサーキットにレーシーなエグゾーストノートを響き渡らせる。

ENERGY Complete EVO63.1



先代6シリーズのエレガントなラインを活かしつつ、インパクト溢れるシルエットを実現したEVO63.1。スタイルッシュかつエレガントなE63のフォルムをサイド周りにボリュームを持たせることでワイド感を演出、その存在感は半端ではない。取材車輛は650iをベースとしたモノだが、エブリィでは他にM6をベースとしたパフォーマンスバージョンも制作。まさにエキサイティングなホットコンプリートだ!



▲フロントのコンセプトはEVO90.2と共に、アグレッシブなデザインに綴りLEDライトが特徴的だ。Ω形状に湾曲したリップセクションにはカーボン素材を採用、スポーティなイメージを加速する。リア周りではマフラーエンド周りに配されたカーボンセクションが目立つ。トランクリッドspoilerも比較的小さなモノとなっており、局面を活かしたデザインが採用される。

▲サイド周りにはボリューム感抜群のデザインが与えられ、EVO63.1の特徴となっている。中でもサイドステップ後端に配されたダクトデザインはそのままリアオーバーフェンダーへと繋がり、フェンダー後部のエアアウトレットまで連続。ワイドなE63のシルエットをより大きく魅せるのに貢献する。ホイールは21inchのエナジー・インディビジュアルType3をマッチング、リムサイズは9J&10.5Jでバフルマイト仕上げのリムにマットグレーのフェイスをセレクトしている。

ENERGY Complete EVO90.2



コンパクトなE90をベースに、アクティブなスポーツフォルムを与えたEVO90.2。従来のEVO90.1の進化型とも言えるディテールを持ち、細部のデザインを見直しよりアグレッシブに変身。前後に共通するリップデザインがエアロダイナミックスを感じさせ、特徴的な5連LEDディライトで個性的なフェイス周りを完結。フロントバンパーの大きなダクトセクションはデザインだけでなく冷却効率を意識したデザインであり、ハイパフォーマンスを予感させるシルエットを完成させた。



▲EVO90.2の最も特徴的なセクションがこの前後バンパーデザインだ。各ダクトのデザイン処理と、前後に関連づけたリップデザインが印象的。リアバンパー下部のABS製ディフューザーセクションがリアフォルムにインパクトを追加、隙のないスポーツフォルムを魅せている。EVO63.1同様トランクリップspoilerも比較的小さなシルエットが与えられ、シルエットを引き立てるものとなっている。

▲3シリーズの本来有するコンパクトな印象を壊さぬよう、サイドセクションのデザインは実にシンプルにまとめ上げる。サイドステップはボリュームを付加する程度に抑えフェンダーの処理もノーマルのままだが、リアバンパー下部にスリットを設けサイドビューを引き締めるのも忘れない。ホイールはEVO63.1と同じインディビジュアルType3でサイズは20inch。リム幅は8.5J-9.5Jとなり、同様にバフルマイトリム＆マットグレーフェイスを装着している。

今注目の最新コンプリートモデル!



エナジースポーツの ラインアップにニューカマー登場



走りを予感させるアグレッシブなシルエット。スバルターンなフォルムでフレームのハートをガッチャリ掴むエナジコンプリート。そのラインアップにこの度ニューカマーが加わった。先代6シリーズであるE63をベースとしたEVO63.1と、同じく先代3シリーズであるE90をベースとしたEVO90.2の2モデルだ。お披露目は6月8日に鈴鹿ツインサーキットで行われた「関東&関西ミーティング2014」で行われ同時にこの別バージョンも登場。敢えて先代モデルを選んだのはベース車輛の価格だけではなく、旧モデルを斬新なデザインでリファインすることで現行モデルと並んで見劣りしないよりインパクトあるフォルムを実現できるからに他

リップ状のデザインが与えられ、整流効果を意識したフォルムとなつている。対するリア周りのデザインはベースモデルの特長を生かした形状となつており、特にマフラーエンジンドの処理に違いが確認できる。EVO90.2は左右マフラーエンジンドをカバーする一体整形のABS製ディフューザーが装着され、バンパー部分にはフロント同様リップデザインが採用される。一方EVO63.1はこのセクションがカーボン製のセパレートタイプとなつており、ディフューザー形状は不採用。E63の持つエレガントなラインを活かしたシルエットとなつていて。両モデルでもうひとつ大きく異なるポイントがサイドビューで、シンプルにまとめられたEVO90.2に対し、EVO63.1は後端にダクト形状を有するサイドステップとリアオーバーフェンダーが設定され、特徴的なシルエットを完成させた。

走りを予感させるアグレッシブなシルエット

ならない。両モデルともデザインコンセプトは似通っているものの、お互いのキャラクターラインをスピードすることなく上手く引き出されている。両車輌に装着されている左右エプロン部の縦5連LEDデイライトが新型モデルのアイキャッチにもなっており、デイライトカバーについてはABS樹脂を採用することにより、さらに複雑な造形を可能にしている。フロントバンパー